

最近の管内経済概況

(2021年11月の経済指標を中心として)

～ **新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況にあり、
持ち直しの動きに弱さがみられる** ～

最近の動きをみると、

- 生産活動は、弱い動きがみられる。
- 個人消費は、一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる。
- 観光は、一部に持ち直しの兆しがみられる。
- 公共工事は、減少している。
- 住宅建設は、持ち直しの動きがみられる。
- 民間設備投資は、増加している。
- 雇用動向は、弱い動きがみられる。
- 企業倒産は、件数は増加、負債総額は減少している。

全体として、管内経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況にあり、持ち直しの動きに弱さがみられる。

なお、先行きについては、新型コロナウイルス感染症の影響、国際経済の動向等を十分注視する必要がある。

※ 下線部は、前月から判断を変更した部分。

2022年1月17日

照会先：経済産業省 北海道経済産業局
総務企画部 企画調査課

T E L：011-709-2311 内線 2525

E-mail：hokkaido-kikakuchosa@meti.go.jp

U R L：https://www.hkd.meti.go.jp

管内経済概況判断の推移

(2022年1月現在)

発表月	2021年8月	9月	10月	11月	12月	2022年1月	前月との判断比較
総括判断	新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況にあるが、一部に持ち直しの動きがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況にあるが、 <u>持ち直しの動きがみられる</u>	新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況にあるが、持ち直しの動きがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況に <u>あり、持ち直しの動きに弱さがみられる</u>	新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況にあり、持ち直しの動きに弱さがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況にあり、持ち直しの動きに弱さがみられる	
生産活動	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	<u>弱い動きがみられる</u>	弱い動きがみられる	弱い動きがみられる	
個人消費	持ち直しの動きに弱さがみられる	<u>一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる</u>	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	
観光	低迷している	低迷している	低迷している	低迷している	<u>一部に持ち直しの兆しがみられる</u>	一部に持ち直しの兆しがみられる	
公共工事	増加している	<u>減少している</u>	減少している	減少している	減少している	減少している	
住宅建設	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	
民間設備投資	増加している	増加している	増加している	増加している	増加している	増加している	
雇用動向	弱い動きがみられる	弱い動きがみられる	弱い動きがみられる	弱い動きがみられる	弱い動きがみられる	弱い動きがみられる	
企業倒産	件数、負債総額とも減少している	件数は減少、負債総額は増加している	件数は減少、負債総額は増加している	件数、負債総額とも増加している	件数、負債総額とも減少している	件数は増加、負債総額は減少している	

※下線部は、前月から判断を変更した部分。

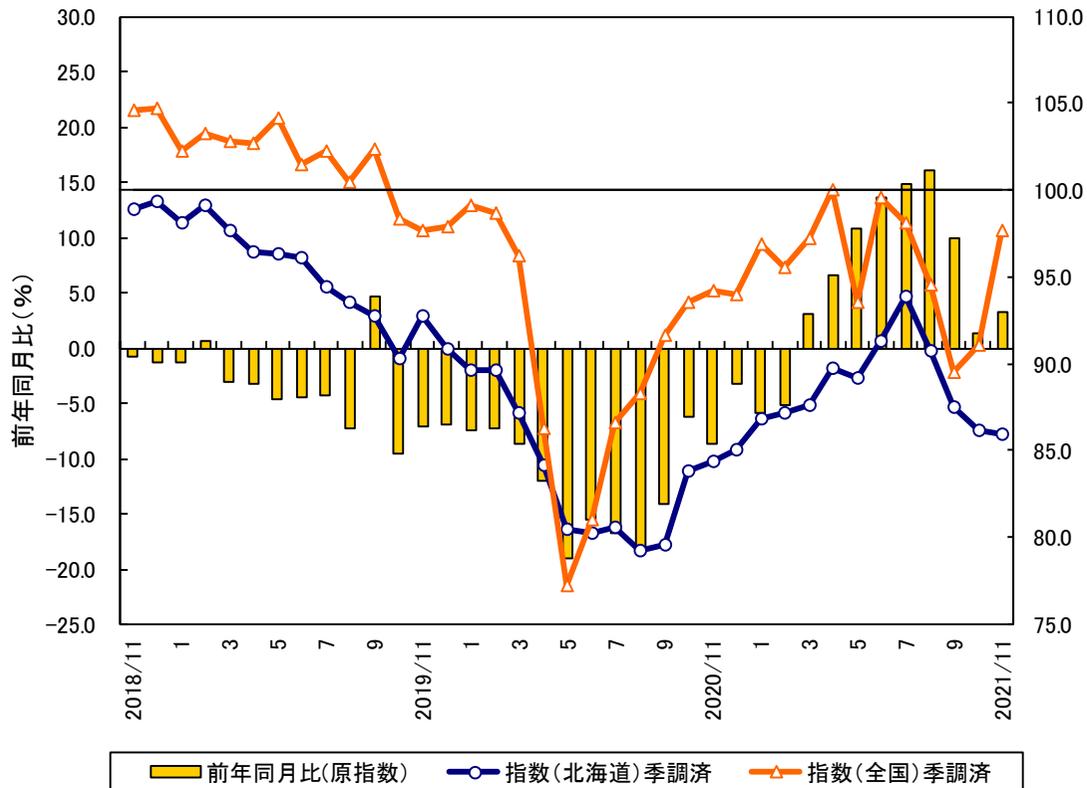
上方修正 据え置き 下方修正

生産活動 ～ 弱い動きがみられる ～

11月の鉱工業生産は、前月比▲0.3%と4か月連続で低下した。
 低下業種は、鉄鋼業など10業種となった。上昇業種は、輸送機械工業など5業種となった。

<11月>	
季節調整済指数	
北海道(速報)	85.9(前月比▲0.3%)
全国(速報)	97.7(前月比+7.2%)

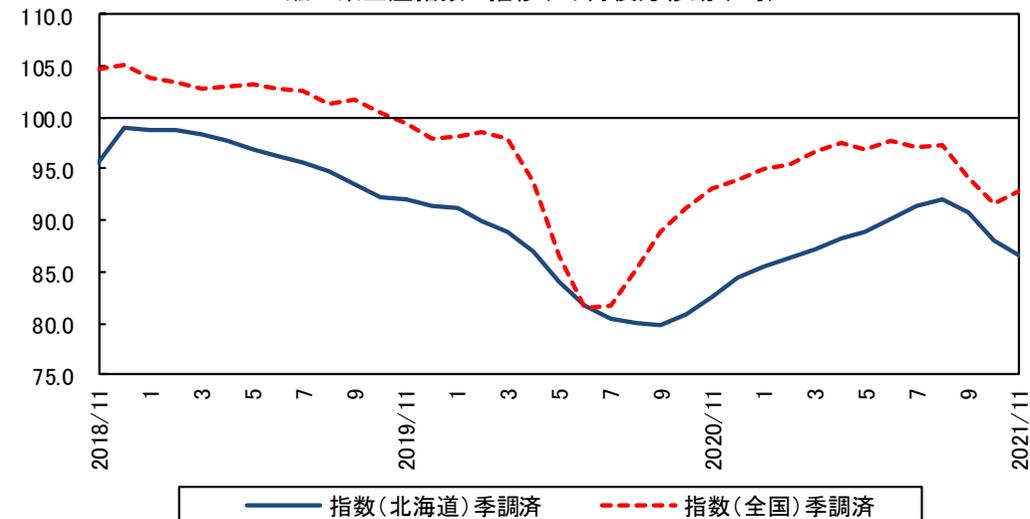
鉱工業生産指数(2015年=100.0)



【ヒアリング内容】

- 一部の装置に不具合があったことから、鋼半製品の生産が減少した。(鉄鋼業)
- 港湾関係の需要が少なかったため、窯業・土石製品の生産が減少した。(窯業・土石製品工業)
- 定期修理のため、印刷用紙(塗工)の生産が減少した。(パルプ・紙・紙加工品工業)
- 東南アジアでの新型コロナウイルス感染症拡大に伴う部品供給不足の影響が緩和してきたことから、自動車部品の生産が増加した。12月は前年並みの生産を見込んでいる。(輸送機械工業)

鉱工業生産指数の推移(3ヶ月後方移動平均)



(資料：経済産業省、北海道経済産業局)

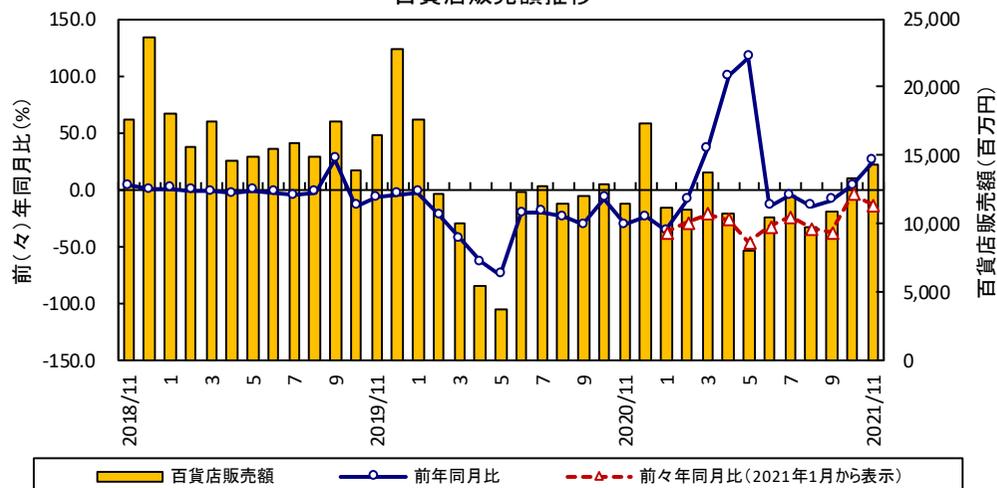
個人消費 ～ 一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる ～

1 1月の個人消費は、百貨店、コンビニエンスストアは前年を上回ったものの、他の5業態は前年を下回った。

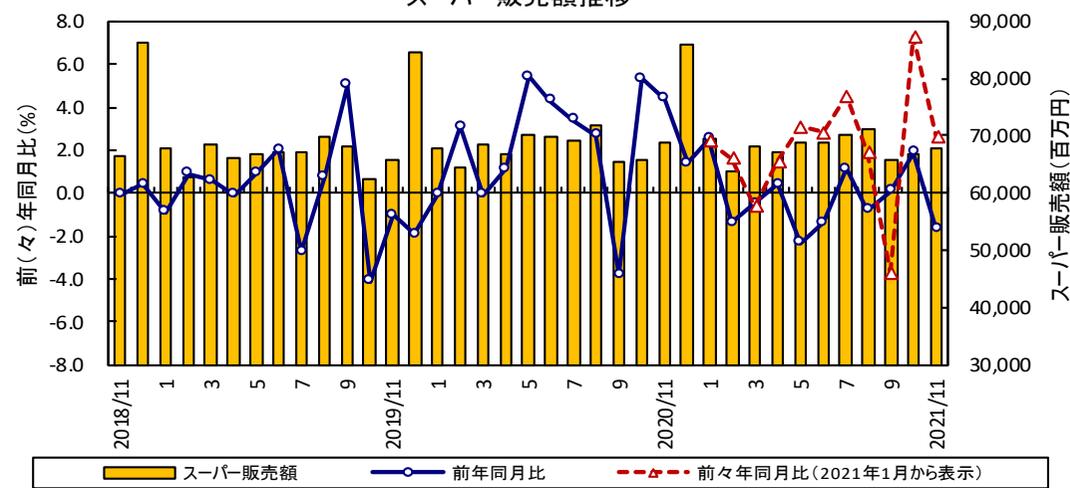
※前々年同月比は、北海道経済産業局「北海道百貨店・スーパー販売動向」掲載の販売額などから算出。

- 百貨店は、客足が好調だったことから、全体的に売上が良く、前年同月比+25.0%（前々年同月比▲13.2%）と2か月連続で前年を上回った。
- スーパーは、衣料品などの売上が好調だったものの、飲食料品が不調だったことにより、同▲1.7%（同+2.6%）と3か月ぶりに前年を下回った。
- コンビニエンスストアは、同+0.3%（同▲2.7%）と4か月ぶりに前年を上回った。

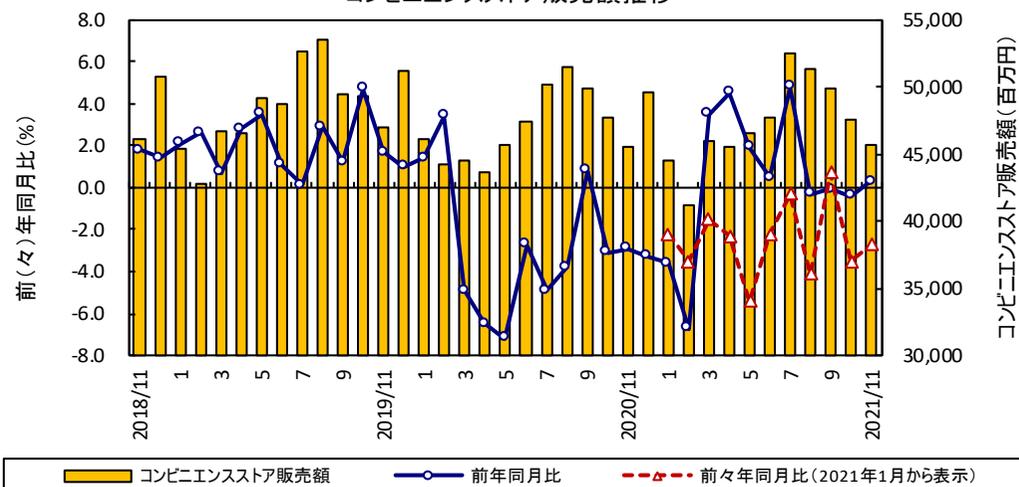
百貨店販売額推移



スーパー販売額推移



コンビニエンスストア販売額推移



※ 2020年3月に対象事業所の見直しを行ったスーパーの2020年2月以前の販売額については、整合性を図るため調整済み。

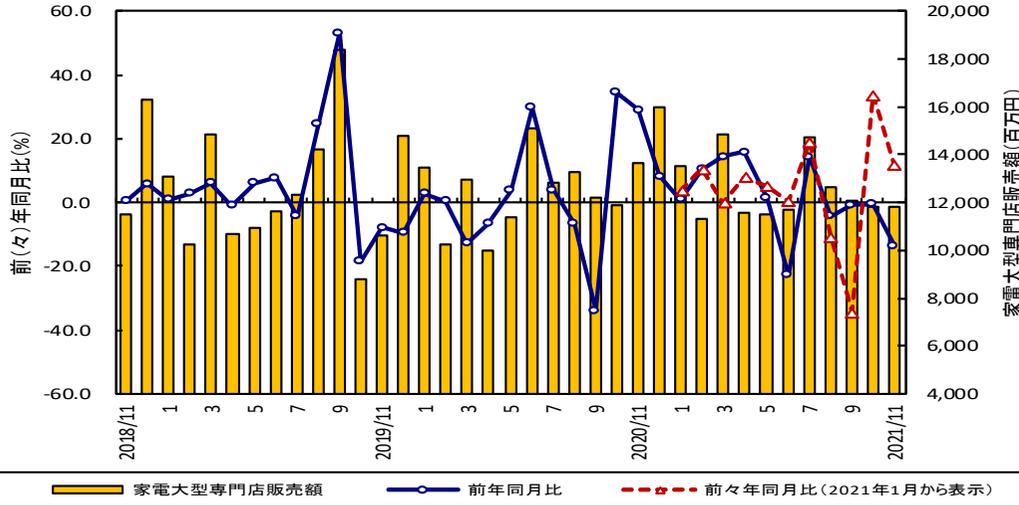
【ヒアリング内容】

- 売上、客数ともに前年を上回った。衣料品は婦人服、紳士服ともに好調で、寒さが本格化してくるに従って、冬物のコートやブーツがよく売れた。催事も客足が良く、好調だった。（百貨店）
- 平野部で初雪が観測された月後半から、冬物衣料が売れ始めたほか、ブラックフライデーも好調だった。一方で、中食需要は底堅く推移しているものの、前年に比べて日曜日が1日少なかったことのほか、好調だった前年の反動もあり、売上が前年を下回った。（スーパー）
- 繁華街店舗の売上が、新型コロナウイルス感染症の拡大前の水準に戻りつつある。家飲み需要は続いているものの、外食の機会が増えてきたせいか、アルコール飲料の売上が落ち着いてきた。（コンビニエンスストア）

(資料：北海道経済産業局)

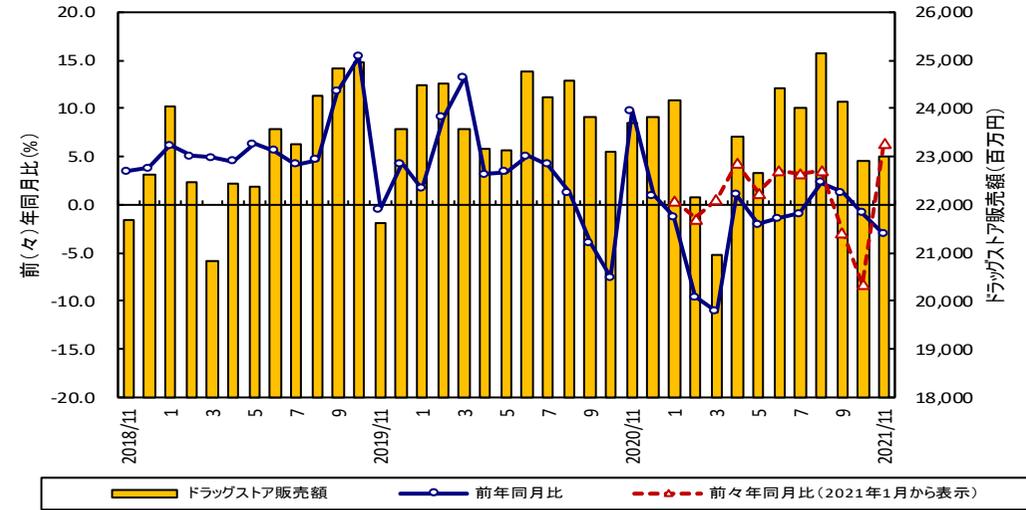
- 家電販売は、同▲13.4%（同+11.7%）と4か月連続で前年を下回った。ドラッグストアは、同▲3.0%（同+6.5%）と2か月連続で前年を下回った。ホームセンターは、同▲3.6%（同+1.3%）と3か月ぶりに前年を下回った。
- 新車販売は、同▲14.3%（同▲3.0%）と5か月連続で前年を下回った。

家電大型専門店販売額推移



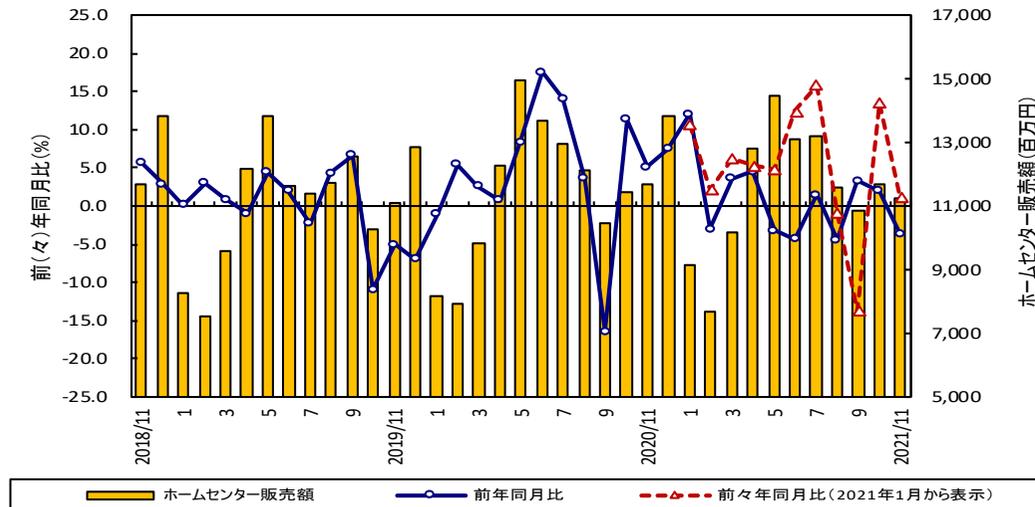
(資料：北海道経済産業局)

ドラッグストア販売額推移



(資料：北海道経済産業局)

ホームセンター販売額推移

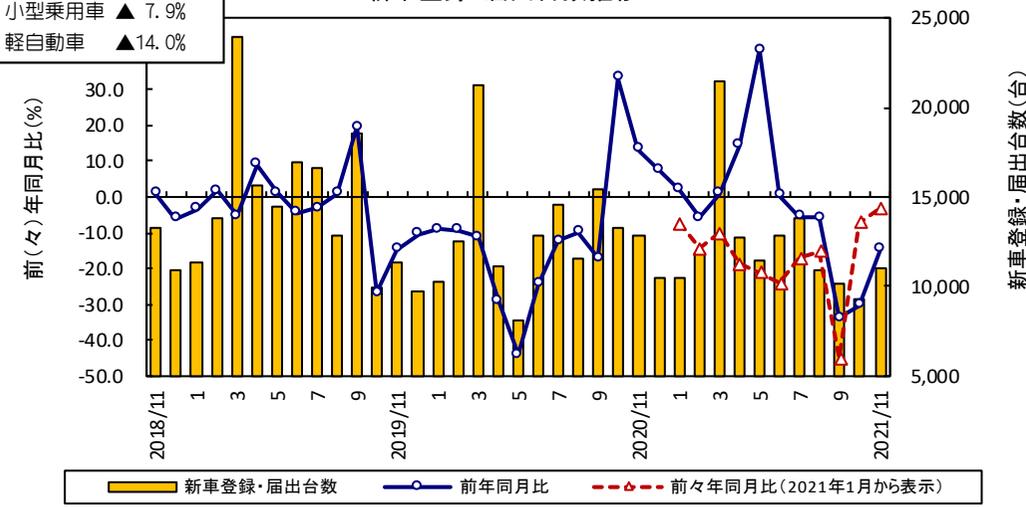


(資料：北海道経済産業局)

<11月>

- 普通乗用車 ▲19.5%
- 小型乗用車 ▲7.9%
- 軽自動車 ▲14.0%

新車登録・届出台数推移



(資料：(一社)日本自動車販売協会連合会、(一社)全国軽自動車協会連合会)

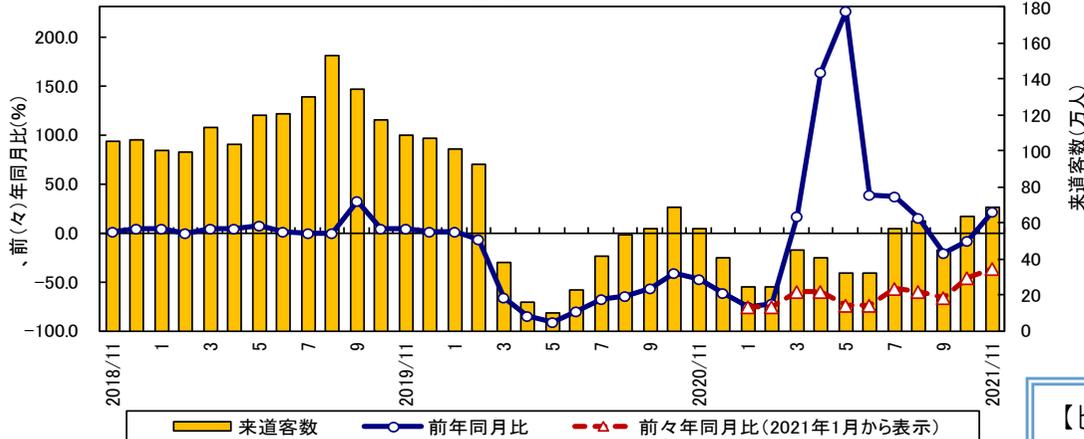
【ヒアリング内容】

- 前年この時期に発売されたスマートフォンの新機種が、今年は前年より早く発売されたため売上が減少した。また、前年は感染症対策で空気清浄機などがよく売れたが、今年はその反動で売上が伸び悩んだ。(家電大型専門店)
- 調剤部門や食料品の売上は好調だったが、気温が例年より高めに推移したことから、カイロやハンドクリームなどの季節商品の売上が良くなかった。(ドラッグストア)
- 気温が平年よりも高めに推移し、暖房機器の売上が伸び悩んだ。また、一部の住宅設備機器で東南アジアからの部品供給不足が続いているため、設備工事の売上が減少した。(ホームセンター)

観光 ～ 一部に持ち直しの兆しがみられる ～

11月の来道客数は、前年同月比+20.9%（前々年同月比▲36.6%）と3か月ぶりに前年を上回った。また、道内外国人入国者数は、0人で前年同月と同数となった。

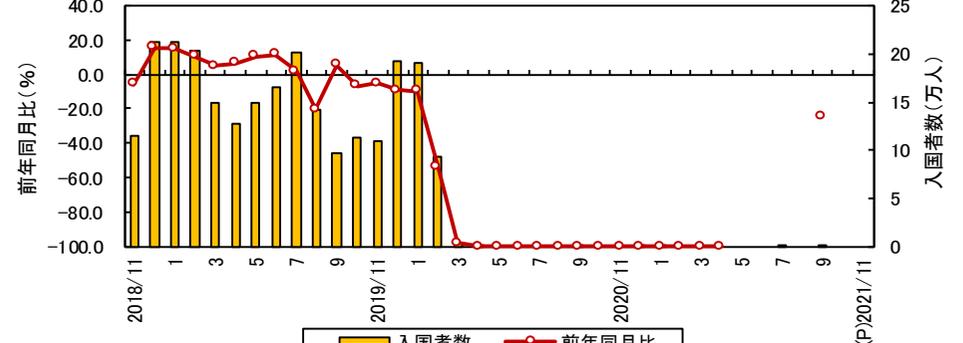
来道客数推移



<11月> 来道客数 690,365人 (+20.9%)
 ※北海道外から航空機（国内線）、JR（北海道新幹線）、フェリーを利用して来道した旅客数。
 ※道内で入国手続きを行った外国人数は含まない。

(資料：(公社)北海道観光振興機構)

道内外国人入国者数



(資料：法務省)

注) (P)は速報値

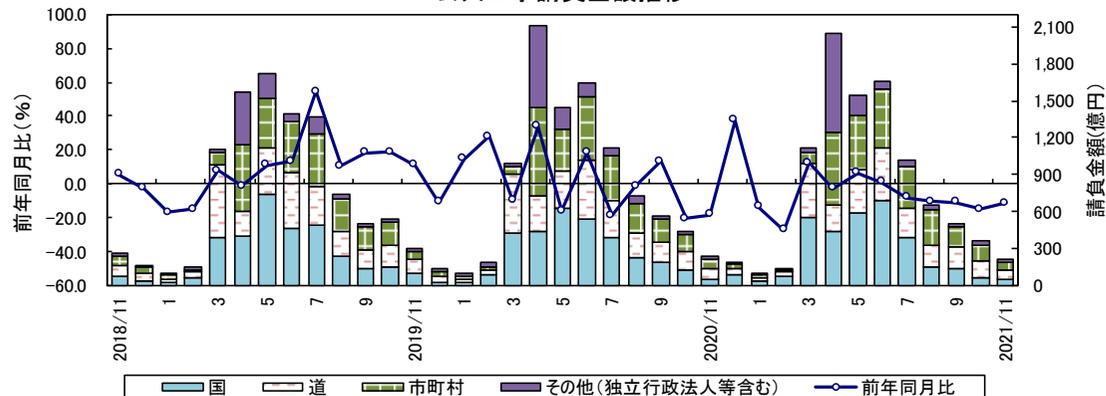
【ヒアリング内容】

- ・11月は、修学旅行客に加え、ツアーバスや団体客の姿も多く見られるなど、以前よりも活気が感じられた。今のところ、観光案内所の利用者数や宿泊施設の稼働率なども回復傾向にあるが、今後、新型コロナウイルス感染症の状況次第でどうなるかは分からない。（関係機関）

公共工事 ～ 減少している ～

11月の公共工事請負金額は、国は前年を上回ったが、道、市町村が前年を下回り、前年同月比▲11.3%と5か月連続で前年を下回った。

公共工事請負金額推移



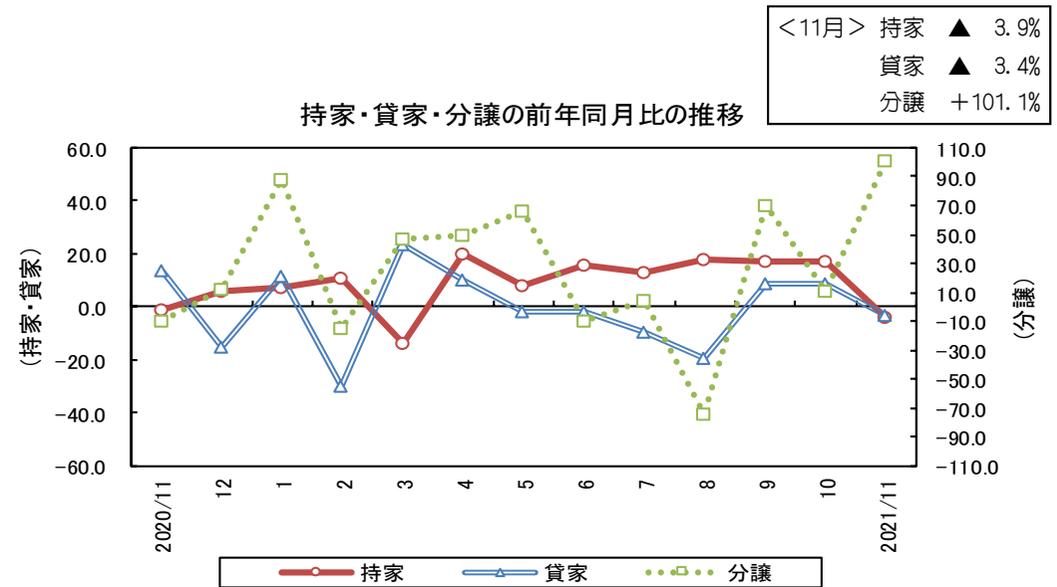
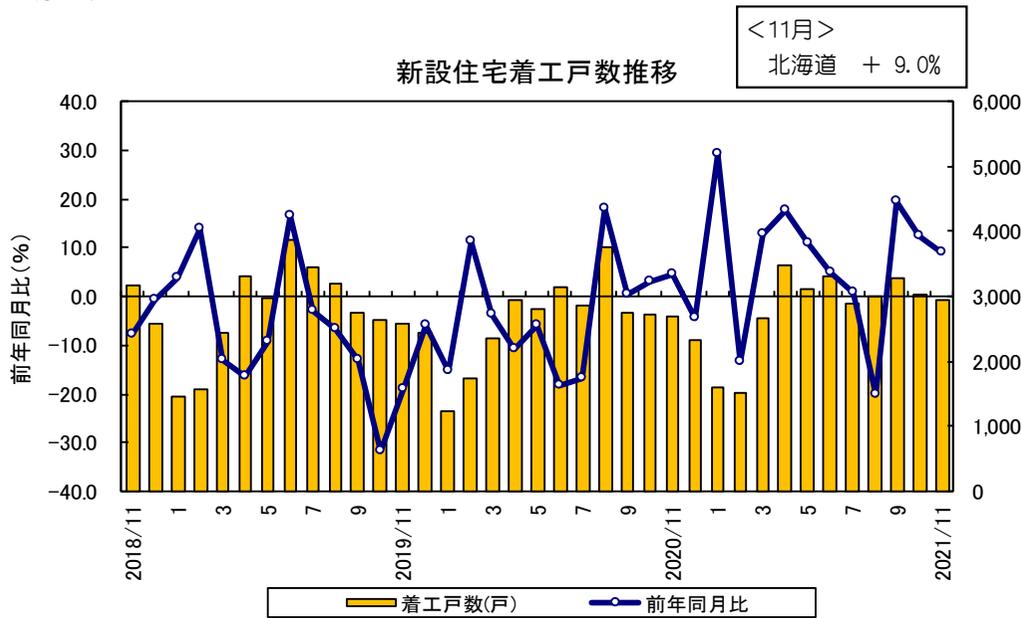
<11月>
 北海道 ▲11.3%
 (内訳)
 国 +1.9% 道 ▲15.4% 市町村 ▲17.4% その他 ▲6.2%

(請負金額は国、道、市町村、独立行政法人等の合計額)

(資料：北海道建設業信用保証(株)ほか2社)

住宅建設 ～ 持ち直しの動きがみられる ～

11月の新設住宅着工戸数は、持家、貸家は前年を下回ったが、分譲が前年を上回り、前年同月比+9.0%と3か月連続で前年を上回った。



(資料：国土交通省)

民間設備投資 ～ 増加している ～

2021年度の設備投資計画は、全体で前年度比+6.9%と2年ぶりに前年度を上回る計画となっている。

日銀短観の設備投資動向

2021年12月13日発表

	2020年度	2021年度
北海道	▲ 19.9%	+ 6.9%
製造業	▲ 4.0%	▲ 21.7%
非製造業	▲ 27.5%	+ 25.1%
全国	▲ 8.5%	+ 7.9%

注) 土地投資額を含み、ソフトウェア投資額、研究開発投資額を除く。

注) 北海道は、電気・ガスを除くベース。

(資料：日本銀行札幌支店)

法人企業景気予測調査(北海道・設備投資)

2021年12月9日発表

	2020年度	2021年度
全産業	▲ 8.6%	+ 14.1%
製造業	▲ 17.7%	▲ 24.8%
非製造業	▲ 2.9%	+ 33.8%

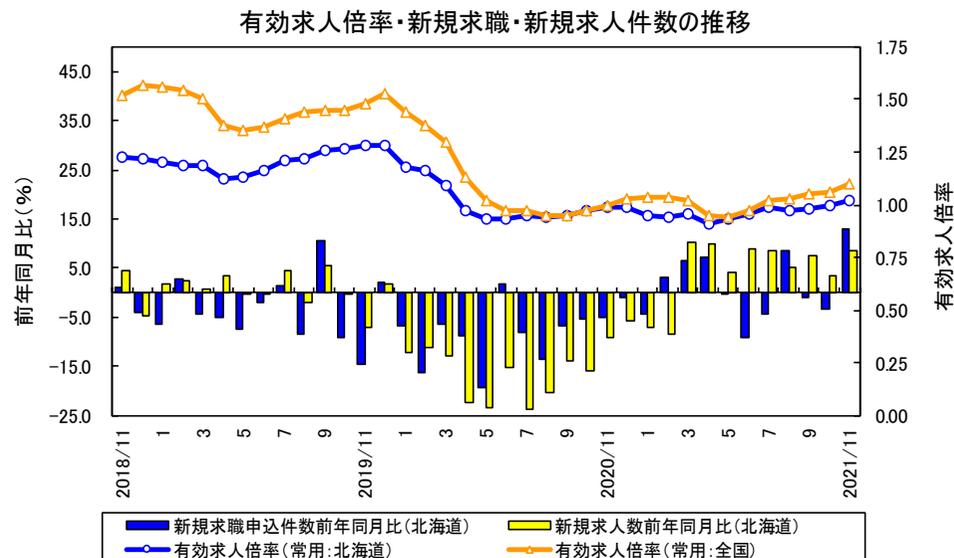
※数値は対前年比増減率。

注) ソフトウェア投資額を含み、土地購入額を除く。

(資料：北海道財務局)

雇用動向 ～ 弱い動きがみられる ～

11月の有効求人倍率は、1.02倍と前年同月差0.03ポイント上昇し、6か月連続で前年を上回った。

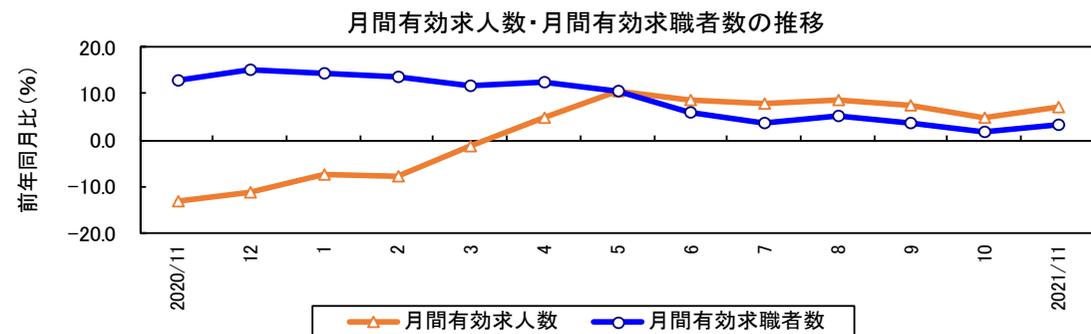


<11月>

北海道	有効求人倍率(常用)	1.02倍
	新規求人数(前年同月比)	+ 8.6%
	新規求職申込件数(前年同月比)	+13.0%
全国	有効求人倍率(常用)	1.10倍

<11月>

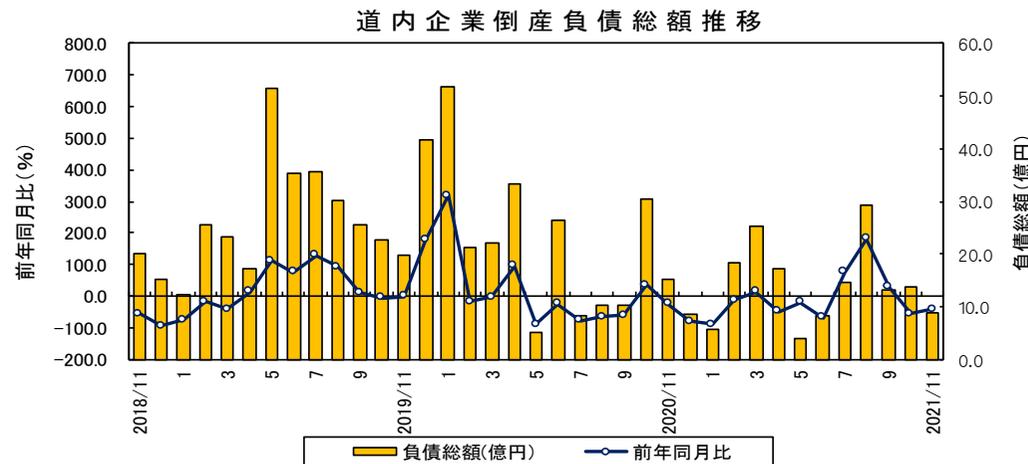
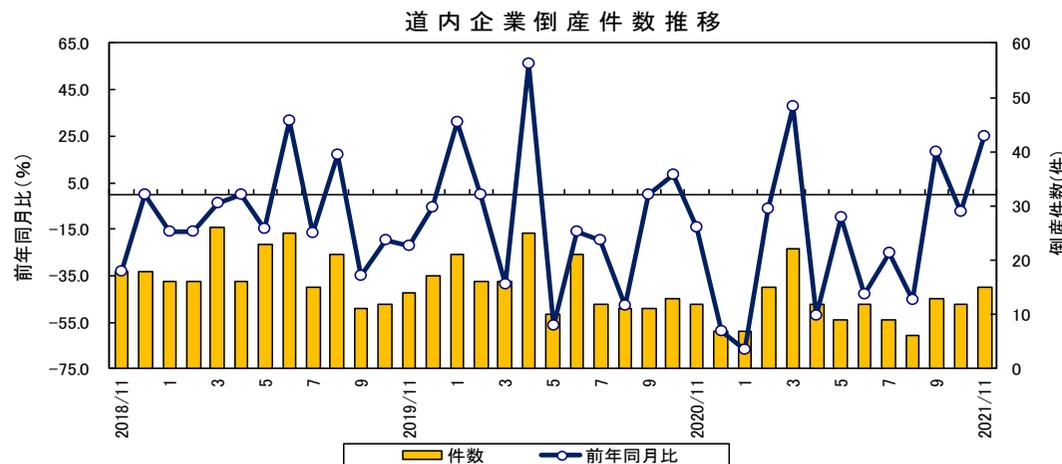
月間有効求人数	(前年同月比)	+ 7.1%
月間有効求職者数	(前年同月比)	+ 3.3%



(資料：厚生労働省、北海道労働局)

企業倒産 ～ 件数は増加、負債総額は減少している ～

11月の倒産件数は15件で、前年同月比+25.0%（3件増）と2か月ぶりに前年を上回った。また、負債総額は8.8億円で、同▲42.0%と2か月連続で前年を下回った。



(資料：(株)東京商工リサーチ)